

資料 1 (年表) 北方四島周辺水域の安全操業交渉の経過

1993年11月26日	根室・歯舞漁協所属のカレイ刺し網漁船がロシア警備艇から銃撃を受け、船長が大けがを負う
1994年3月28日	ポキージン南クリル地区長から大矢快治根室市長あてに「貝殻島方式での操業拡大」を希望しているか、否かを問うテレックスが届く
3月29日	大矢市長がポキージン地区長に「返事をもう少し待ってほしい」旨のテレックスを送信
3月30日	ポキージン地区長から2通目の大矢市長あてのテレックスが届く。「モスクワへは、4月2日か3日に出発する」
4月4日	ポキージン地区長から2通目の大矢市長と、清野満根室支庁長あてのテレックスが届く。「貝殻島方式あるいは、その他の形態での操業」の実現を提案
4月5日	根室記者クラブ(10社)に3月28日のテレックスの要旨を発表
4月14日	大矢市長がポキージン地区長に「回答時期に付きまして暫くの間ご猶予願います」旨のテレックスを送信
4月19日	大矢市長がポキージン提案の一連の経過について、北海道庁、北海道水産会、水産庁、外務省に出向いて説明
4月20日	ロシア国境警備隊などによる密漁取締作戦「プチーナ94」スタート
4月22日	セミコフ南クリル副地区長がビザなし交流で根室市を訪れ、大矢市長と会談
5月12日	根室管内8漁協が日ロ漁業問題検討委員会で、ポキージン提案を受けた地元案作りの協議を開始
5月22日	佐藤守良北海道開発庁長官が根室を訪れ、北方領土を視察。ポキージン提案について「基本的に共同事業を含め、認めるべきではない」と反対姿勢を示す
5月22日	千島歯舞諸島居住者の総会で、ポキージン提案について「領土問題が空洞化する」「原則論は資源管理を願う地元の意向を無視したもの」と賛否両論が出る
5月27日	外務省の西田恒夫ロシア課長が根室を訪れ、講演でポキージン提案について「外務省としては政府間の公式提案として受け止めていない」と発言
6月3日	柿沢弘治外相が衆院外務委員会で、鈴木宗男議員の「8月までにある程度の検討結果を」との質問に対し、8月をめどにロシアと交渉入りする意向を表明
6月21日	根室管内8漁協の日ロ漁業問題検討委員会が10回目の会合を開き、地元案のたたき台を決定

- 6月23日 根室管内漁協組合長会が総漁獲量14万2200トン、水揚げ金額362億8000万円の地元案を決定
- 6月30日
～7月1日 根室管内1市4町の首長、議長、根室管内各組合長が北海道庁、道議会、北海道開発庁、総務庁、外務省、水産庁、鈴木議員ら地元選出国會議員を回り、地元案を説明
- 7月5日 大矢市長、根室管内各漁協の幹部らがビザなし交流で国後島を訪れポキージン地区長と会談
- 8月14日 石川県船籍の中型イカ釣り漁船がロシア警備艇から約3時間にわたり約10回の銃撃を受け、船長が左眼を負傷
- 8月15日 根室漁協所属のカニかご漁船がロシア警備艇から銃撃を受け、甲板員が負傷
- 10月4日 根室・歯舞漁協所属のカレイ刺し網漁船が銃撃を受けて被弾し、被弾箇所から浸水し、曳航中に沈没
- 11月27日 河野洋平外相とソスコヴェツ第1副首相が東京で会談し、交渉入りすることで合意
- 1995年3月13日
～14日 日ロ政府間交渉開始
- 1997年6月20日 橋本龍太郎首相とエリツィン大統領が米国デンバーで会談。エリツィン大統領が「交渉を促進するよう事務当局に強く働きかけている」と発言
- 7月1日
～4日 第10回交渉で管轄権を明記しないことに合意
- 11月1日
～2日 橋本龍太郎首相とエリツィン大統領がクラスノヤルスクで会談し、「2000年までに平和条約を締結するよう全力を尽くす」と合意
- 12月30日 第13回交渉で妥結
- 1998年2月21日 小渕恵三外相とネムツォフ第1副首相が協定書に調印
- 10月1日 羅臼漁協所属の漁船20隻が初出漁